

平成28年度 企画理事 運営目標

番号	運営目標	ページ
1	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【森の京都】 市町村、地域と一体となって「森の京都博」を開催し、森に育まれたライフスタイルや文化、自然の魅力を発信し、新たな交流を巻き起こし、地域の持続的な発展に向けた拠点整備とそれを活かした住民活動のサポートを強化します。</p>	1
2	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【お茶の京都】 戦略拠点施設・日本遺産構成文化財等を活用し、「お茶の京都」ターゲットイヤーに向けて取組を具体化させます。</p>	7
3	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【海の京都】 府・7市町・観光事業者の強固な連携組織「海の京都・DMO」を設立し、「海の京都」のセカンドステージとして、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを進めます。</p>	13
4	<p>「和食」の聖地化、及び「天橋立」「宇治茶」の早期世界遺産登録や「天橋立」の日本遺産登録をめざします。</p>	18
5	<p>城陽市東部丘陵地の広域的な視点からの地域づくりを推進します。</p>	18
6	<p>「みやこ構想」について、セカンドステージの実現に向けた取組を進めます。</p>	19

運営目標数	6
うち数値目標	5

平成28年度 企画理事 運営目標

運営目標	
1	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【森の京都】 市町村、地域と一体となって「森の京都博」を開催し、森に育まれたライフスタイルや文化、自然の魅力を発信し、新たな交流を巻き起こし、地域の持続的な発展に向けた拠点整備とそれを活かした住民活動のサポートを強化します。</p>
達成手段 (数値目標)	<p>【全体マネジメント】 森の京都博の開催を通じて、これまで森の京都のエリアに足を運んだことのない方々にとっても魅力的な多様な交流機会を用意し、森に育まれたライフスタイルや文化、自然の魅力を広く発信することにより、住民が自ら新たな価値を発見し、地域の良さを再認識する中で、地域の持続的な発展に向けた拠点整備とそれを活かした住民活動等のサポートを強化します。</p> <p>森の京都の地域商社「森の京都DMO」を年内に設立し、地域製品のブランド化と販売強化、観光振興など「森の京都」をテーマにした地域づくりにつなげ、地域の稼ぐ力を創出します。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じた森の京都博の開催 <200回以上(28新規)> ○地域ニーズに応じて、住民・実践者等によるマスタープランの実現に向けた実践戦略づくりに専門家を派遣 <50回以上> ○マスタープランに基づく森の京都事業の実施 <60事業(27実績:57事業)> ○地域づくり等の実践者の掘り起こし・育成 <100人(27実績:115事業)> <p>【森の京都博】</p> <p>○「森の京都博」メインイベント4回</p> <p>①スプリングフェス(森の京都博×mer☆ガールズFes)を開催し、森の京都の魅力を全国に向け強力にアピールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6市町を巡る「森の京都体験ツアー」<3コース150人(28新規)> ・ガールズミーティング、ファッションショー<1,000人(28新規)> ・「森の京都」マルシェ、まち歩き<2,000人(28新規)> <p>②サマーフェス(全国キッズダンスフェスティバルin森の京都)を開催し、表現活動を通じて小中高校生達が森の大切さを学び発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予選大会 <南丹市、京丹波町、綾部市、京都市右京区京北 2,000人(28新規)> ・決勝大会、「森の京都」マルシェ <福知山市 2,000人(28新規)> <p>③「第40回全国育樹祭」を開催し、次世代へつなげる京都の森の文化を府内外に発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演する地元小中高校生 <300人以上(28新規)> ・プレイベント開催数、交流人口 <6回、延べ3万人以上(28新規)> ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ <5,000枚(28新規)> ・府民参加の森づくり活動参加者 <延べ20,000人(28新規)> ・緑の少年団の新規設立 <3団体(28新規)> <p>④テイクオフ(ウィンター)フェスを開催し、地域の誇りを喚起し、「森の京都」を未来へ向けて発信します。</p>

運営目標

	<p>○「森の京都博」市町村・地域イベント <200回以上(㊟新規)> (主なイベント例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市: 第44回亀岡光秀まつり(亀岡城下町一円) ・南丹市: 京都「ひよし新緑祭」(スチールの森 京都) ・京丹波町: 京丹波森のぶるぶ(須知高校「ウィードの森」) ・福知山市: 小林章男の世界・瓦の魅力(ハピネスふくちやま) ・綾部市: 里山体験プラ 里山ねっと・あやべ(綾部市里山交流研修センター) ・京都市右京区京北: エコツアーin京北(京北森林公園) <p>○「森の京都博」HP開設更新、ガイドブック発行を通じて、地域、市町村の取組について情報発信するしくみを構築<ガイドブック発行 4回(㊟新規)></p>
	<p>【DMO関連事業】</p> <p>○地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力に推進する組織として、「森の京都DMO(仮称)」の設立を推進</p> <p>○森の京都地域全体の観光情報を一元化的に集約・情報発信する仕組みの構築 (ex.宿泊施設等受入体制の情報収集など)</p> <p>○エコ・グリーン・スポーツなど地域資源を活用した着地型商品の開発 <100ツアー造成(㊟新規)></p> <p>③ ○販売・予約システムの構築による販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型旅行商品 ・農家民宿等の斡旋(特に、修学旅行等へのアプローチを強化) ・地域の特産品 <p>○食をはじめとした地域製品のブランド化</p> <p>○人材の育成支援(地域交流型ビジネスの創業希望者(ネット販売含む)、観光ガイド等)</p>
	<p>【豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全】</p> <p>④ ○「森の京都」の中核的資源である京都丹波高原国定公園の適切な利活用(ワズユース)を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元関係者等によるプラットフォームを組織し、世界中から一度は訪れたいと思う公園をめざし、自然環境保全と利活用を一体的に推進します。 ・素晴らしい自然を世界に向けて発信していく広報物の作成に向けて取組を進めます。 ・地元や旅行業者と連携し、地域住民や自然とふれあい、自然の大切さを再認識できる新たな「エコツアー商品」を開発します。 <p><新規ツアーの商品化 4本(㊟新規)></p>

運営目標

<p>⑤</p>	<p>【「森の京都」スタイルの生活の再定義・発信】 森の恵みを活かした食や伝統文化、産業など森に包まれた暮らし方である「森の京都」スタイルの情報発信、グリーンツーリズム・観光など新たな森林ビジネスの創出等により地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を図り、定住・半定住を促進します。 ○森の京都探訪記事業を通じて発信力のあるクリエイターが地域に入り、「森の京都」スタイルの暮らし方や生業に光を当て、将来にわたり活用が可能な探訪記として編集出版、訴求力のある媒体により広く強く長期に情報発信を行う。 ○森の京都エリアで暮らす「地元出身者」「移住者」「Uターン者」を取材したテレビ番組を作成し、森の京都の暮らしの魅力を発信する。 (移住促進(「もうひとつの京都」共通)) ○「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」の制定を契機に、地域の新たな担い手となる移住者の確保と耕作放棄地の再生・活用を推進し、地域再生を加速させます。 ・府の支援による農家民宿開設数 <累計80軒(㉗実績:累計71軒)> ・農山漁村地域等に移住した都市住民等の人数 <400人(㉗実績:288人)> ・農山漁村地域等における空家の利活用数 <100件(㉗実績:142件)> ・空家と農地の一体活用 <7計画(㉘新規)> ・耕作放棄地(再生可能な農振農用地)の解消面積 <80ha(㉗実績:集計中)></p>
	<p>【新京都伝統工芸ビレッジ構想】 ○新光悦村に整備した移動式の職人工房を活用し、若手職人の販売や交流機会をつくるなどの支援を行うとともに、工芸関係者の新光悦村への誘致を進めます。 <森の京都博in新光悦村等の来場者数:1,000人(㉘新規)> <新規企業立地(新光悦村):2件></p>
<p>⑥</p>	<p>【森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくり】 森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくりを進め、交流産業の振興による地域経済への波及効果の創出等を実現します。 ○道の駅や宿泊施設等の拠点施設の整備促進 ・大江山グリーンロッジ ・里山交流研修センター ・美山自然文化村 ・美山ふれあい広場 ・日吉山の家 ・瑞穂の里さらびき ・亀岡市交流会館 ○廃校施設等への民間資本による宿泊施設等の誘致を推進</p>

運営目標

- 「里の公共員」の配置し、持続・発展する地域づくりを推進(「もうひとつの京都」共通)
 - ・<里の公共員の配置:累計10地区(㉑実績:8地区)>
 - ・<命の里づくり取組地区数:52地区(㉑実績:48地区)>
- 美しい農山漁村景観や農産物等の地域資源を活用した都市農村交流やビジネスおこしの取組を展開
 - ・<「命の里」農山漁村里力再生事業 取組地区:累計70地区(㉑実績:累計62地区)>
- 農山漁村の地域資源を活かした都市農村交流を促進(「もうひとつの京都」共通)
 - ・<府の支援による農家民宿開設数:累計80軒(㉑実績:累計71軒)>
 - ・<農家民宿の宿泊者数:5,800人(㉑実績:4,540人)>
 - ・<教育体験旅行の受入れ:60団体 3,000人(うち農家滞在 3市町700人)(㉑実績:47団体 2,501人(うち農家滞在 3市町250人)>
- 古道などの資産整備、観光誘客等に活用
 - ・大江山(復活!元伊勢古道と石畳古道)
 - ・奥上林(ほら!トレッキングルート)
 - ・大江山を光で見せるプロジェクト<参加者 延1,000人(㉒新規)>
- 森の京都の「食」の開発
 - ・<京都丹波ジビエフェア参加店:50店(㉑実績:41店)>
 - ・京都丹波ジビエ認証制度の創設
- あうる京北で「森の芸術祭」として、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくクラフト等を開催し(9月~11月)、地域文化の魅力を発信
 - ・<会期中入場者数:10,000人(㉒新規)>
- 「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「森の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。
 - ・景観支援事業<府域全体で50カ所(㉒新規)>
 - ・府民公募型整備事業(もうひとつの京都枠)<府域全体で20カ所(㉒新規)>
 - ・地域構想推進美観事業<府域全体で15施設以上 (㉑実績:9施設)>

- (ネットワーク化)
- 京都縦貫自動車全線開通を活かし戦略拠点等への高速バス等の増便
 - 戦略的交流拠点エリア及び拠点間の整備を推進
 - ・京都広河原美山線(美山町)に案内標識等を整備推進、2車線改良の事業完了
 - ・園部平屋線(殿田)、小西西坂線(鍛冶屋)・綾部宮島線(肱谷バイパス)の事業推進
 - (地域主導)
 - ・「道の駅農匠の郷やくの」周辺:上夜久野停車場線の道路拡幅等整備推進
 - ・「大江山・三岳山エリア」:綾部大江宮津線歩道整備等推進
 - ・美山鶴ヶ岡地区:棚野川親水護岸整備
 - 森の京都エリア(山陰本線(園部~綾部))の公共交通網の整備に係る法定協議会の設置及び地域公共交通網形成計画の策定

運営目標

【「森の京都」ターゲットイヤーを契機とした林業の新たなステージ】

～川下対策～

府内産木材の率先利用を進め、公共施設や民間施設における需要を拡大するとともに、府民に対し木材利用や木の文化を発信します。

- ・「ウッドマイレージCO2」認証等製品出荷量 <23,700m³(^㉗実績:18,108m³)>
- ・民間の商業施設等における府内産木材のモデル的利用件数 <10件(^㉘新規)>
- ・新たな木製品の開発・PR <5件(^㉘新規)>
- ・新国立競技場建設への府内産木材の利用
- ・府内産木材販売促進会議(仮称)の開催 <4回(^㉘新規)>
- ・森林文化マップの作成

～川中対策～

府内完結型の木材産業体制の構築のため、大型加工施設の立地や木材加工流通施設整備、原木のストック体制の整備を推進します。

- ⑦ 府内産木材の府内大口加工施設への供給量 <4万m³(^㉘新規)>
- ・ストックヤード整備 <1箇所(^㉘新規)>
- ・原木ストックの仕組みの構築
- ・CLT製造施設立地プロジェクトチームによる立地箇所の決定

～川上対策～

府内の森林資源の多くが伐期を迎える中、丹波広域基幹林道沿線エリアを中心として木材の集中搬出を実現するとともに、多様な森づくりを推進します。

- ・府内産素材生産量 <23.7万m³(^㉗実績:集計中)>
- ・木材生産モデル地区(林業クラスター)の設置 <4箇所(^㉘新規)>
- ・作業路網の開設 <145km(^㉗実績:集計中)>
- ・協業化により、協同して森林整備に取り組む事業体 <22事業体(^㉗実績:20事業体)>
- ・花粉の少ないスギ・広葉樹等の植栽 <25ha(^㉘新規)>
- ・うるし採取園造成 <2箇所(^㉘新規)>

【「森の京都」の魅力の効果的プロモーション・観光誘客の推進

○「森の京都博」の実施<メインイベント4回、市町村・地域イベント200回(^㉘新規)>【再掲】

○「森の京都博」の中核イベントとして、「第40回全国育樹祭」を開催し、次世代へつなげる京都の森の文化を府内外に発信します。【再掲】

- ・出演する地元小中高高校生 <300人以上(^㉘新規)>
- ・イベント開催数、交流人口 <6回、延べ3万人以上(^㉘新規)>
- ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ <5,000枚(^㉘新規)>
- ⑧ 府民参加の森づくり活動参加者 <延べ20,000人(^㉘新規)>
- ・緑の少年団の新規設立 <3団体(^㉘新規)>

○「森の京都」の魅力を観光資源として情報発信し、「森の京都」のブランドイメージの形成と観光誘客を推進

・地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力で推進する組織として、「森の京都DMO(仮称)」の設立を推進

・観光事業者、出版社、交通事業者等と連携した特集記事掲載の共同企画<10企画(^㉗実績:4企画)>

・「森の京都観光ツアー」の実施<5企画(^㉗実績:3企画)>

○「森の京都博」HP開設更新、ガイドブック発行を通じて、地域、市町村の取組について情報発信するしくみを構築<ガイドブック発行 4回(^㉘新規)>【再掲】

運営目標

○スポーツ観光の推進

- ・京都トレーニングセンターの開設にあわせ、親子が楽しめる「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」を開催
＜来場者数 1,000人(28新規)＞
- ・京都トレーニングセンターにおいて、地元高校生等を対象にトレーニング体験を含めた施設見学会を開催
- ・「京都丹波国定公園」において、市町、NPO、地元団体と協働し、ファミリー層や外国人をターゲットにウォーキングイベント(11月3日美山)を開催 ＜来場者数 500人(28新規)＞
- ・市町、地元団体と連携し、スポーツと田舎暮らしを体験する男女の出会いイベント、京都丹波へ『でいと・し・といで』を開催＜参加者数 50人(28新規)＞
- ・木工、スポーツグッズ、食の販売など「森の京都商店街」を地元商工会等と協働開催
(京都丹波トライアスロン大会賑わい創出)(8月27日、28日大堰川緑地公園)
＜参加者・来場者数 10,000人(28新規)＞
- ・スポーツと観光を組み合わせた体験プログラム開発
＜開発数 8件(27実績:6件)＞
- ・アグリスポーツの開催＜3回(27実績:5件)＞
- ・美山サイクリングイベント等での観光情報の発信＜2回(27実績:3回)＞
- ・京都丹波トライアスロン大会 ＜参加選手数 300人、観客数 7,000人(27実績:3,000人)＞
- ・京都トレーニングセンター(仮称)の利用者数 ＜9,000人(28新規)＞
- ・SEA TO SUMMITの開催等アウトドアスポーツ愛好家の誘客
＜参加者 3,200人(27実績:3,077人)＞
- ・JAPAN ECO TRACKによるアウトドアスポーツフィールドの魅力を全国に発信
＜記事掲載等:5件(28新規)＞

運営目標

2 ~もうひとつの京都プロジェクト~【お茶の京都】
 戦略拠点施設・日本遺産構成文化財等を活用し、「お茶の京都」ターゲットイヤーに向けて取組を具体化させます。

達成手段
 (数値目標)

- ①
- 【全体マネジメント】
 各市町村のマスタープランを踏まえ、戦略拠点、日本遺産を中心に持続可能なお茶・観光産業等の振興を図るため、ターゲットを絞ってお茶の京都博(仮称)の準備を完了します。
 「お茶の京都・DMO」を年内に設立し、各市町村の戦略拠点や観光客の受入体制の整備などと連携し、「広域観光振興」、「宇治茶のプレミアムブランド化」「農業観光」など地域の稼ぐ力を創出します。
- 全体イベント計画の策定、メディア事前プロモーション実施、公式イベントガイド作成
 - お茶の京都博覧会実行委員会(仮称)、各市町村イベント実行委員会の設置・ワークショップ・実行委員会の開催 <50回(㊟新規)>
 - 各戦略拠点ごとの実践者会議による施設整備、市町村コアイベントの企画<12箇所(㊟新規)>
 - 各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進<12市町村(㊟新規)>
- ②
- 【プレイベントの開催】
 ターゲットイヤーに向けて、プレイベントを通じた宇治茶の魅力発信と地域の機運を醸成します。
- 「関西茶業振興大会京都大会」<参画団体数:6団体、来場者数:5万人(㊟新規)>
 - 「Uji-CHA Fair 2016」を山城各地で開催 <60回(㊟新規)>
 - 台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㊟新規)>
 - 「宇治茶ムリエ」認定者(新規認定者含む)を対象に「King of 茶ムリエ」大会を開催 <1回(㊟新規)>
 - 市町村ごとにプレイベントを実施<12回以上(㊟新規)>
 - ・宇治茶まつりとコラボしたPR実施(宇治市)
 - ・復活する「秋花火大会」でのPR企画の実施(城陽市)
 - ・クロスピア・ミニコンサートとのコラボ企画の実施(久御山町)
 - ・石清水八幡宮、松花堂庭園、四季彩館を活かした茶会の実施(八幡市)
 - ・町制60周年記念イベントとのコラボ企画実施(宇治田原町)
 - ・ツアー・オブ・ジャパンと連動した企画、実施(京田辺市)
 - ・まちづくりセンター椿坂における「玉水企画」の実施(井手町)
 - ・全国ご当地鍋フェスタでのプレイベント実施(笠置町)
 - ・茶源郷まつりにおける料理コンテストの実施(和東町)
 - ・キヅガワゴン(リアカーゴ)を活用したプレイベント実施(木津川市)
 - ・けいはんな公園での移動式販売車等を利用したイベント開催(精華町)
 - ・道の駅オープンと連動した、プレイベントの企画、実施(南山城村)

運営目標

<p>③</p>	<p>【DMO事業】 ○お茶の京都地域全体の観光、地域資源情報を一元化的に集約・情報発信する仕組みの構築 ○宇治茶のブランド管理、プレミアムブランド化の推進(富裕層向け旅行商品・体験型コンテンツの開発) ○マーケティング・ニーズ調査 ○着地型・体験型旅行商品の開発 <100ツアー造成(⑳新規)> ○観光農業等のブランド化 ○販売・予約サイトシステムの構築による ・着地型・体験型旅行商品の販売促進 ・食をはじめとした地域特産物の販売促進 ・農家民宿等の斡旋(特に、修学旅行等へのアプローチを強化) ○人材の育成支援(地域交流型ビジネスの起業希望者(ネット販売含む)、観光ガイド等) ○公共交通ネットワーク改善・整備の企画・推進</p>
<p>④</p>	<p>【宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承】 茶畑景観等を維持・継承し、宇治茶の価値の再発見・向上を図るため、日本遺産「『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城」を地域住民に浸透させるとともに、世界文化遺産登録に向けた府民運動を展開するなど、お茶文化の振興、普及・拡大を図ります。</p> <p>(茶畑景観等の維持・継承、世界文化遺産登録推進) ○宇治茶の世界遺産登録を実現するための働きかけ(イコモスへのアピール) ・調査論文の提出、提案書のバージョンアップ ○重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の国選定に向けた基準づくりの開始 <2町村(㉑実績:2町村)> ・宇治茶のシンポジウム、文化講座等の開催<5回(㉑実績:5回)> ○登録された8市町村の日本遺産登録に加え、山城地域の残る4市町村の登録を推進<4市町村(㉒新規)> ○来年度の日本遺産サミットの開催に向け、日本遺産のPRを推進(地元イベントでの発信<60回(㉒新規)>、富裕層向け情報発信) ○日本遺産読本(マンガ)を活用した小学生対象の授業実施 ○東京国立博物館において情報発信(パネル展示、宇治茶伝道師による講演等)</p>
	<p>(お茶の文化の普及・拡大) ○宇治茶ファンの拡大と消費拡大に向けターゲットを絞った取組、子ども達へのお茶育の推進 ・「宇治茶ムリエ」を育成<新規1,000人 延べ2,000人(㉑実績:1,000人)> ・管内の企業等で出張講座を開催 <開催回数30回(㉑実績:29回)> ・小学生を対象とした「キッズ茶ムリエ」検定を開催 <開催回数4回(㉑実績:4回)> ・「宇治茶ムリエ」認定者を対象に「King of 茶ムリエ」大会を開催<1回(㉒新規)>(再掲)</p>

運営目標

○宇治茶ブランドを確立し、茶道やハレの日のお茶としてPRするとともに、水出してん茶・玉露など新しい飲み方を提案し、日常的に使うお茶としての利用を拡大

- ・年間通じた宇治茶イベントへの参加者数 <30万人(㉗実績:13万人)>
- ・「お茶の京都博(仮称)」に向け、「Uji-CHA Fair2016」を山城各地で開催 <60回(㉗実績:30回)>(再掲)
- ・参加の利便性を高める「お茶所バス」の運行 <6日(㉗実績:5日)>
- ・抹茶アート等、女性をターゲットにしたイベントを開催 <20回(㉘新規)>
- ・首都圏ホテル等での新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案する消費拡大イベントを開催 <参加者30,000人(㉘新規)>
- ・台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉘新規)>(再掲)
- ・日本遺産魅力発信を兼ねたPRの実施(㉘新規)【企画】(ARガイドマップの作製・配布、4Kカメラを活用した映像作成・放映、情報誌掲載)

○最高級宇治茶を理解できる層にターゲットを絞り、新しい飲み方やボトルティーなど新製品を戦略的に販売

- ・SNSを活用した宇治茶ファンを確保 <1万人(㉗実績:3,981人)>
- ・フェイスブック(宇治Love)による宇治茶の魅力の発信
- ・首都圏ホテル等での新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案する消費拡大イベントを開催 <参加者30,000人(㉘新規)>(再掲)
- ・台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉘新規)>(再掲)
- ・世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップ等を作成 <マップ等5,000部(㉘新規)>
- ・輸出用宇治茶の生産拡大 <実証圃の設置3箇所、現地検討会3回(㉘新規)>

○各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進 <12市町村(㉘新規)>

【交流エリアの創出、ネットワーク化】

日本遺産認定を活用し各種拠点のネットワーク化を支えるソフト・ハードの基盤を整備し、地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を実現します。

(交流拠点を中心としたコアイベント開催準備)

- ⑤ ○戦略拠点等を活用し、民間プレーヤー中心とした組織によりプレイベントを実施するとともに、本イベントを企画(再掲)
- ・宇治茶まつりとコラボしたPR実施(宇治市)
 - ・復活する「秋花火大会」でのPR企画の実施(城陽市)
 - ・クロスピア・ミニコンサートとのコラボ企画の実施(久御山町)
 - ・石清水八幡宮、松花堂庭園、四季彩館を活かした茶会の実施(八幡市)
 - ・町制60周年記念イベントとのコラボ企画実施(宇治田原町)
 - ・ツアー・オブ・ジャパンと連動した企画、実施(京田辺市)
 - ・まちづくりセンター椿坂における「玉水企画」の実施(井手町)
 - ・全国ご当地鍋フェスタでのプレイベント実施(笠置町)
 - ・茶源郷まつりにおける料理コンテストの実施(和束町)
 - ・キヅガワゴン(リアカーゴ)を活用したプレイベント実施(木津川市)
 - ・けいはんな公園での移動式販売車等を利用したイベント開催(精華町)
 - ・道の駅オープンと連動した、プレイベントの企画、実施(南山城村)

運営目標

(ネットワーク化/戦略拠点の整備)

○交流拠点等を結ぶ「宇治茶かおり回廊」を活用した広域回遊のシステムづくりなど既存施設や戦略拠点のネットワーク化

- ・「京都やましろ茶いくるライン」の整備
- ・「ツアー・オブ・ジャパン・京都ステージ」のコースを茶いくるラインに加え、案内標識の設置や路面案内マーキング、路面補修などを推進
- ・案内標識の設置や路面案内マーキング、路面補修などを推進
- ・京都八幡木津自転車道線(八幡市、京田辺市)のリニューアル着手
- ・「宇治茶かおり回廊」の整備
- ・国道163号、生駒井出線等に案内標識等を整備推進
- ・駐輪ラックの整備
- ・日本遺産魅力発信を兼ねた取組

(ARガイドマップの作製・配布、情報誌掲載、案内板の設置)

○お茶の京都エリア(関西本線(加茂以東)の公共交通網の整備に係る法定協議会の設置及び地域公共交通網形成計画の策定

○「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「お茶の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。【再掲】

景観支援事業<府域全体で50カ所(28新規)>

府民公募<府域全体で20カ所(28新規)>

地域構想推進美観事業<府域全体で15施設以上 (27実績:9施設)>

○お茶の京都交流拠点を市町と連携して整備します。

- ・湯屋谷地域駐車場整備(宇治田原町)
- ・「椿坂」井戸水活用整備(井手町)
- ・道の駅整備(南山城村)
- ・観光案内所整備(和束町)
- ・クロピア久御山(久御山町)
- ・駅舎整備(笠置町)

【お茶産業のイノベーション創出】

茶業研究所を核に、世界に通じる「宇治茶」の新たな価値を創出するとともに、お茶の機能性を引き出し新商品の開発や新たな産業展開を図ります。

⑥

(茶業研究所機能強化・整備)

- ・茶業研究所が業界団体、企業・大学等と一体となって、宇治茶の将来、成長に向けた重要研究テーマを新たに策定<3テーマ(28新規)>
- ・茶業研究所のリニューアルを実施(新製茶棟を整備)

運営目標

(お茶の新商品開発、販売単価向上・ブランド化)

- ・販売単価の2%アップを目指します。
- ＜荒茶生産額80億円突破、2,760円/kg(㉗実績:77億円、2,698円/kg)＞
- ・首都圏ホテルでの新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案
＜30,000人(㉘新規)＞(再掲)
- ・国際博覧会(台湾)において輸出に向けた商談会等を行う団体を支援
＜商談会等10回(㉘新規)＞(再掲)
- ・世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップを作成
＜マップ等5000部(㉘新規)＞

(宇治茶のプレミアムブランド化)

プレミアム宇治茶認証制度を創設するとともに、宇治茶をトップブランドとして確立するための海外市場分析や海外プロモーションを展開します。

- ・宇治茶プレミアムブランド戦略策定(関係者との合意、コンテンツ調査)
- ・プレミアム宇治茶認証制度の試行品 ＜10個(㉘新規)＞
- ・お茶の味表現チャートの試作検証 ＜20個(㉘新規)＞
- ・海外プロモーション・市場分析の実施
- ・ロゴ・タグライン等広報ツールの策定

(お茶の生産量拡大、品質向上)

- ・生産量を1%アップ ＜2,900t(30t増加)(㉗実績:2,869t)＞
- ・大規模集団茶園における増収・品質向上＜技術情報チラシ50部、現地濃密指導5回(㉗実績:技術情報ちらし50部、濃密指導5回)＞
- ・低温による減収回避(被覆の徹底)＜技術情報チラシ800部、現地研修会10回(㉗実績:技術情報ちらし800部、現地研修会15回)＞
- ・担い手への茶園集積と機械作業に対応した生産性の高い茶園整備推進
(宇治田原町湯屋谷地区)＜沈砂池の工事完了、造成工事の発注設計書作成＞
- ・「宇治茶GAP」実践農家率の向上 ＜目標80%(㉗実績:76%)＞
- ・新設てん茶工場の整備を支援＜2工場(㉘新規)＞
- ・台湾向け等輸出国別茶畑の確保＜14ha(㉘新規)＞

【宇治茶文化・魅力の効果的プロモーションと観光誘客】

○「お茶の京都」の魅力を観光資源として情報発信し、「お茶の京都」のブランドイメージの形成と、観光誘客を推進

㉗

- ・お茶の京都地域全体の観光、地域資源情報を一元化的に集約・情報発信する仕組みの構築(再掲)
- ・「関西茶業振興大会京都大会」＜参画団体数:6団体(㉘新規)、来場者数:5万人(㉘新規)＞(再掲)
- ・観光事業者、出版社、交通事業者等と連携した特集記事掲載の共同企画＜5企画(㉗実績:5企画)＞
- ・「お茶の京都観光ツアー」の実施:3企画(㉗実績:3企画)＞
- ・台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 ＜商談会等10回(㉘新規)＞(再掲)
- ・世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップ等を作成 ＜マップ等5,000部(㉘新規)＞(再掲)
- 各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進 ＜12市町村(㉘新規)＞(再掲)

運営目標

○スポーツ観光の推進

- ・ ツアー・オブ・ジャパン京都ステージを開催し、スポーツを通じた地域の交流を促進
　　<観客数 30,000人(28新規)>
- ・ 和束町でのマウンテンバイクの日本自転車競技連盟(JCF)認定コース化による全国大会開催支援

運営目標

3 ~もうひとつの京都プロジェクト~【海の京都】
府・7市町・観光事業者の強固な連携組織「海の京都・DMO」を設立し、「海の京都」のセカンドステージとして、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを進めます。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>【全体マニフェスト】 府、市町、観光協会の強固な連携組織である「海の京都・DMO(仮称)」を6月に設立します。 DMOは、「観光地経営」の視点に基づき、統計・データ等に基づくマーケティング、CS(顧客満足)の管理、毎年度のPDC A等を行いつつ、プロモーション、人材育成・確保、着地型商品流通等を総合実施することで、観光圏全体でのサービス水準・CSの向上を実現するとともに、2次交通等地域公共交通等の改善等にも取り組むことで、集客・利益の偏在等の地域格差を是正し、観光圏のブランド化、観光地域づくりを推進します。 <観光入込客数 過去最高1, 100万人以上(26実績:909万人)> <観光消費額 3, 300円/人(26実績:2, 465円/人)> <外国人宿泊者数 37,000人(26実績:29, 569人)></p> <p>① ○観光客の属性・動態調査等を実施し、各種観光施策を効果的に推進 ○広域着地型商品、着地型商品、体験プログラムなど売れる旅行商品を造成 ○着地型商品、宿泊予約、特産品などの海の京都の販売サイトの構築 ○DMOの2種旅行業免許取得等により、各地域本部の旅行商品販売体制を構築 <旅行業販売事務所7カ所(27実績:3協会)> ○顧客満足度調査によるブランド化の推進 ○丹後食の王国、農林、商工との連携による特産品開発・掘起し ○インバウンド対策の推進 ○全国、海外に向けた積極的な情報発信 ○民主導の取組について、積極的な働きかけを行い、民間投資を促進 <民主導の新規取組 250事業(27実績 209事業)></p>
	<p>【観光振興戦略拠点の整備と拠点間のネットワーク強化】 ○「海の京都」戦略拠点及び戦略拠点間の施設整備を推進 ・[久美浜エリア]久美浜湊宮浦明線(久美浜町)の2車線改良の事業推進 ・[伊根浦エリア]伊根港線景観舗装等整備推進(地域主導) ○「海の京都」周遊ルートの整備を推進 ・国道178号(上野平バイパス)事業推進、国道178号(袖志)・浜丹後線(宮バイパス)事業推進など「丹後半島一周京都の 新海遊ルート」の整備推進 ② ○京都丹後鉄道の魅力アップ等利用促進の取組を推進 ・特急車両のデザイン改修による魅力向上 ・京都丹後鉄道駅におけるまちづくりと一体となった駅周辺のにぎわいづくりや交通 結節機能の強化を図り利便性向上を図る駅再生プロジェクトの推進 ・丹後由良駅、久美浜駅の駅再生に着手 ・運行会社とも連携した利用促進策の推進 <京都丹後鉄道利用者人数 200万人(26実績 184万人)></p>

運営目標

	<p>○国際ランドブリッジ形成のため、京都舞鶴港の日本海側拠点港計画を実現し、「物流」の港から「人流・物流」の総合ゲートウェイ化を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際埠頭岸壁70メートル延伸、ふ頭用地の造成、多目的クレーンを整備 ・第2ふ頭での直行航路の国際フェリー就航に向けた施設整備 ・多言語表記の観光案内板等、外国人観光客のための施設整備 <p>○山陰近畿自動車道の道路整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与謝天橋立IC～京丹後大宮IC間の平成28年内の供用 ・大宮峰山道路の直轄権限代行事業の促進支援 ・峰山～網野間の事業化要望 <p>○伊根町蒲入の178号通行止め箇所の早期復旧</p> <p>○『ゆらり』サイクリングロード、加悦岩滝自転車道線の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進のための休憩施設整備、看板設置 <p>○与謝天橋立IC～京丹後大宮IC開通記念イベントの実施</p> <p>○「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「海の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。【再掲】</p> <p>景観整備支援事業 <府域全体で50カ所(28新規)></p> <p>府民公募 <府域全体で20カ所(28新規)></p> <p>地域構想推進美観事業 <府域全体で15施設以上 (27実績:9施設)></p> <p>○観光交通の実証実験等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久美浜湾内の遊覧船 ・ぐる丹バス(夕日が浦からの逆コース) <2便(28新規)> ・橋立～宮津浜町 ・高速バスの自動案内装置整備 <p>○DMO、公共交通事業者が連携し企画切符等を販売</p> <p>【ブランド化の推進】</p> <p>○広域着地型商品、着地型商品、体験プログラムなど売れる旅行商品を造成(28新規)</p> <p><商品造成数 350ツアー(50×7市町)(28新規)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな旅行商品となる医療ツーリズム、ユニバーサル観光の推進 ・お金の取れる観光ガイドの育成 <育成ガイド数 21名(28新規)> ・地域版通訳案内士の候補者の掘起し・育成 <育成数 10名(28新規)> <p>○顧客満足度調査によるブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光関連施設の顧客満足度調査の実施 <200カ所(28新規)> ・観光関連施設(宿泊施設、飲食店、土産物販売店等)の推奨制度の導入 <p>○丹後半島ブランド価値発掘・発信事業(28新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな体験プログラム、広域周遊交通プラン等の積極的広報による誘客 <参加者数 15,000人(28新規)> ・まちづくり団体、観光協会と連携した体験プログラムの動画配信 <10メニュー(28新規)> ・中京圏・京阪神の旅行会社へのファムトリップ・商談会の実施 <旅行会社10社(28新規)> ・大学や観光関連専門学校によるバーチャル旅行会社による魅力発掘・発信 <p><参画学校数 2校 参画学生数 40人(28新規)></p>
--	--

運営目標

	<p>○「海の京都」の歴史の拠点づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸の玄関口である丹後から日本国内に伝播した歴史・文化の情報発信拠点施設としての「丹後歴史文化博物館（仮称）」の基本計画策定 ・海の京都特設展示「生誕300年 与謝蕪村展」の開催 <1,000人(㉔新規)> ・丹後の歴史的魅力を紹介する特別展・企画展の開催 <4企画展等(㉔新規)> ・地元と協働した文化体験事業の企画立案の検討及び試行 <試行事業の実施 2回(㉔新規)> <p>○山陰海岸ジオパークの魅力を国内外に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊観光を促進するための市場調査や、多言語で情報発信するアプリ開発を実施 ・今年度開通予定の京丹後大宮IC等から効果的にPR案内誘導する道路案内標識を設置し、旅行者にジオパークを普及 <サイン5基(㉔新規)>
<p>④</p>	<p>【「海の京都2016」を開催し、「海の京都」の魅力を全国に発信】</p> <p>平成27年度は、海の京都博を実施、成功させることができ、その流れを引き継ぐために「海の京都2016」を開催して、継続的地域意識の醸成を向上させ、魅力を発信する。</p> <p>○海の京都後祭事業を実施（ウォータープロジェクションショー）</p> <p>○TANTANロングライド、SEA TO SUMMITで「海の京都」を全国からの参加者にPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TANTANロングライド参加者数 <1,600人 (㉗実績:1,553人)> ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客 <参加者数:3,200人(㉗実績:3,077人)> ・JAPAN ECO TRACKIによるアウトドアスポーツフィールドの魅力を全国へ発信 <記事掲載等:5件(㉔新規)> ・民間団体によるサイクリング、登山等のイベント開催支援 <イベント参加者数:450人(㉔新規)> <p>○与謝天橋立IC～京丹後大宮IC開通記念イベントの実施</p>
<p>⑤</p>	<p>【「食」の拠点づくり等】</p> <p>DMOと連携し、丹後地域の「食」の魅力発信により、「海の京都」観光の拠点化を推進するとともに、丹後王国「食のみやこ」における10次産業化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○丹後王国「食のみやこ」の入園者数 <60万人(㉗実績:52.6万人(3月13日時点))> ○実践学舎生や地元農家・グループ等の料理開発や加工研修による人材育成 <100人(㉗実績:90人)> <p>○地域の将来を担う高校生等による「高校生レストラン」への参画高校数 <7校(㉗実績:7校)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○丹後王国「食のみやこ」における新たな商品等の開発件数 <7件(㉗実績:7件)> ○地域の農林水産物を活かした加工品の開発 <試作品支援 5品(㉗実績:5品)> <p>○丹後地域の魅力ある「食」を安心・安全かつ高品質で提供するため、ブランド水産物の生産拡大を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丹後とり貝」「丹後ぐじ」「育成岩がき」の販売総額（中丹地域を含む） <235百万円(㉗実績:234百万円)> ・高鮮度サワラの出荷量の拡大 <5トン(㉔新規)>

運営目標

	<ul style="list-style-type: none"> ○関係団体や事業者と連携した食の魅力づくりを推進 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後グルメフェスティバル、道1グランプリのジョイント開催 <来場者数 50,000人 (㉔新規)> ・丹後道の駅スタンプラリーの開催(夏季) ・丹後王国を核とした道の駅直売所等の魅力向上や販売促進 <ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの把握や魅力ある商品づくりのための講習会の開催 専門家による個別経営診断やコンサルティング <6事業者 (㉔新規)> ・丹後の地酒魅力発信 <ul style="list-style-type: none"> 酒蔵と酒米生産者との交流会の開催 <2回(㉔新規)> 都市部の飲食店や量販店において地酒の販促活動を展開 <1回(㉔新規)> ○「丹後うまいもんフェア」等の開催 <開催回数 10回(㉗実績:10回)> ○大型量販店での丹後製品の常設コーナーの設置 ○DMOによるICTを活用した特産品等販売強化
⑥	<p>【インバウンド対策の推進】 DMOと連携し、増加する外国人観光客を「もうひとつの京都」に誘客し、インバウンドによる地域創生を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インバウンド戦略の策定 ○外国人観光客の受入環境の整備(食事メニューの多言語化支援、観光マップの多言語化、観光案内所の多言語対応能力の推進等) ○外国人向けのコンテンツ開発 <ul style="list-style-type: none"> ・富裕層向けのコンテンツ開発 ・伝統工芸体験プログラム等造成による外国人乗客の地域周遊促進 <プログラム造数数:延10コース(㉔新規)> ・Wi-Fiや多言語翻訳システムの導入、免税店支援等、地域での多言語受入環境を整備します。 <Japan_Free_Wi-FiKyoto 800件(㉗実績:670件)> (もうひとつの京都共通) ・地域の外国人観光客受入機運を醸成するため、おもてなし研修を実施します。 <6回(㉗実績:1回20人)> (もうひとつの京都共通) ○台湾プロモーションの実施 ○クルーズ客船の誘致に取り組み、京都舞鶴港の機能を強化 <ul style="list-style-type: none"> ・日韓露国際フェリーを利用した出入国者の数 <5,000人(㉗実績:約440人)> ・クルーズ客船寄港決定数 <18寄港 (㉗実績:17寄港(うち2は宮津港寄港))> ・クルーズ船乗客数 <24,000人(㉗実績:約9,600人(宮津港・伊根港寄港を含む))> ・地元の多彩なパフォーマーによるクルーズ客船おもてなし行事の実施 <実施回数15回(㉗実績:8回)>
⑦	<p>【観光情報の発信力強化】 DMOを核に、各市町連携した観光プロモーションを首都圏・京阪神圏・中京圏等に向け積極的に展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロモーション戦略の策定 ○京阪神や中京圏をはじめ地域内外のイベント等で「海・森の京都」の情報発信 <情報発信回数:20回以上(㉗実績:17回)> ○有名書籍とタイアップした海の京都ガイドブックの作成 ○首都圏での旅行博出展 ○旅行会社を対象としたファムトリップの実施 ○京都府・市町・観光協会等間の情報共有イントラの構築及び地域資源のDB化

運営目標

⑧

【府北部地域連携都市圏の形成】

「京都府北部地域連携都市圏」の形成に向け、地域内連携による都市機能の向上と、生活機能の集約・交通網の充実等による交流人口の更なる拡大と労働生産性向上を通じた所得水準の向上を図り、定住促進を進めます。

- ・全観光協会の海の京都DMOへの統合参画による北部連携の具体化
- ・新設した専任事務局をサポートし、北部地域連携都市圏ビジョンの策定、北部連携に向けた具体的な連携事業の実施を支援 <広域連携事業 3事業(⑧新規)>

運営目標

4 「和食」の聖地化、及び「天橋立」「宇治茶」の早期世界遺産登録や「天橋立」の日本遺産登録をめざします。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「和食」の聖地をめざし、オール京都の推進体制である「京都・和食文化推進会議」を運営し、顕彰事業等をはじめ京都ならではの取組を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体 <340団体・個人(㉗実績:268団体・個人)> ・「和食文化京都大賞」及び「京都和食文化賞」による顕彰 ○和食文化の保護・継承を図るため、府立大学における平成31年4月を目指した和食文化学科(仮称)開設準備及び学問体系の構築に係る調査・研究等に対して支援します。 <ul style="list-style-type: none"> ・学問体系の構築等に係る調査・研究(平成27年度に引き続き専門家会議を開催)<4回(㉗実績:3回)> ・学科開設に向けた、学部枠組みを超えた学際的な教育プログラムの提供 (「和食の文化と科学」プログラムの継続実施、新たに「食文化原論」、「和食文化論」等の科目を開講) ・高等教育機関の設置認可申請の準備(設置計画の検討、文部科学省への事前協議) ・「和食文化の大学コンソーシアム(仮称)」設立に向けた、関連大学・研究者・民間企業等との準備協議 ○「天橋立」「宇治茶」の世界遺産登録に向けて、「暫定リスト」拡大を国に働きかけます。 ○市町村と連携し、天橋立はじめ「日本遺産登録」に向けて国に働きかけます。
------------------------	--

5 城陽市東部丘陵地の広域的な視点からの地域づくりを推進します。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○城陽市東部丘陵地において、新名神高速道路などの広域交通インフラの整備インパクトを最大限活用できるよう、長池・青谷の先行整備地区への高次な商業機能や国際的な物流機能の導入をめざすとともに、中間エリアにおける段階的な土地利用を進めます。 ○このため、官民一体の体制による「城陽市東部丘陵地整備推進協議会(仮称)」の設立を支援し、道路ネットワーク等の整備に係る情報共有や意見交換を行うとともに、企業等の誘致を促進します。 ○さらに、城陽市が制定した「城陽市東部丘陵地まちづくり条例」に基づく「城陽市東部丘陵地整備委員会(仮称)」の設立を支援するなどにより、当該地域の無秩序な土地利用を防止し、将来にわたり計画的な土地利用が図れるよう関係機関への指導・調整を進めます。 ○また、先行整備地区の事業化に向け、事業組合の設立等の手続きが進むよう、諸課題に係る関係機関の調整を行います。
------------------------	---

6 「みやこ構想」について、セカンドステージの実現に向けた取組を進めます。

① ○「海」「森」「お茶」等のもうひとつの京都プロジェクトと連携しながら、みやこ構想のセカンドステージの着実な推進のため実効あるマネジメントを行います。

【丹後・食の王国構想】

○「丹後王国」を核として、丹後食材を使ったオリジナル特産品開発(6次産業)や「食」に関わる人材育成を行う10次産業化を推進するとともに、観光拠点「道の駅」として地域の活性化を促進します。

<丹後王国利用者数:60万人(㉗実績:52.6万人(3月13日時点))>

<丹後地域の道の駅利用者数:160万人(㉘新規)>

<「食」に係わる人材育成:100人(㉗実績:90人)>

<丹後道の駅ネットワーク(仮称)、丹後農林漁家民宿ネットワーク(仮称)の設置>

・府民とともに、簡易魚道の設置やくみ上げ等の天然遡上鮎を増やす取組を支援

<協働活動の実施:4地区(㉘新規)>

・カワウ被害減少に向けた効果的な取組の実施に向けた計画を策定

<関係者の役割を明確にする計画を策定>

【日本海観光構想】

○「海の京都博後祭」(ウォータープロジェクトショー)を開催し昨年の「海の京都博」の盛り上がりを引き継ぐとともに、「海の京都」のセカンドステージとして、官民一体となったDMO組織を確立して、平成32年度に「ブランド観光地域」の認定を受けることを目指します。

・地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力に推進するため、観光・交流・集客等に関する事業を一元的・総合的に行う事業主体として、DMO組織「海の京都振興会社(仮称)」を設立

・各市町において「海の京都」の統一コンセプトに基づき、魅力ある景観形成を支援

<府域全体で15施設以上(㉗実績:9施設)>

・ジオパーク観光をはじめ、観光地域づくりマネージャーと連携した滞在型ツアーの実施

<40ツアー(㉗実績:31ツアー)>

・TANTANロングライド参加者数:1,600人(㉗実績1,553人)>

【京都舞鶴港ランドブリッジ構想】

○京都舞鶴港を京都府の物流ネットワークの拠点とし、関西経済圏における日本海側ゲートウェイとしての役割をさらに発揮するため、対岸諸国との定期航路を拡充するとともに、クルーズ客船の誘致に取り組み、京都舞鶴港の機能を強化します。

・コンテナ取扱量 <10,000TEU(㉗実績:8,620TEU)>

・貿易取扱量 <1,187万t(㉗実績:1,103万t)>

・定期航路数 <5航路(㉗実績:4航路)>

・日韓露国際フェリーを利用した出入国者の数 <5,000人(㉗実績:約440人)>

・クルーズ客船の寄港決定数 <18寄港(㉗実績:17寄港(うち2は宮津港寄港))>

・クルーズ船乗客数 <24,000人(㉗実績:約9,600人(宮津港・伊根湾寄港を含む))>

運営目標

【北京都ものづくり拠点構想】

- 「北部産業技術支援センター・綾部」のリニューアル計画素案を中心に、北部リサーチパーク構想を推進します。
- 丹後・知恵のものづくりパークセカンドステージへ向けて、新たな事業スキームを構築します。

【由良川里山回廊構想】

- 由良川沿いに広がる優れた里山資源を活かし、里山を巡る回廊の整備を進めるとともに、訪れる人々が里山の生活文化を体感できるようにします。
- ・森林づくり活動への参加など、地域や団体等への働きかけ強化によりモデルフォレスト運動を推進します
＜MF運動への参加者数 1,000人(㉑実績:872人)＞
- ・京都丹波ジビエのブランド化を図るため、「京都丹波ジビエ認証制度」の創設
- ・中丹地域及び大消費地(京阪神、首都圏)でメニュー開発や試食会等の支援を行い、京都丹波ジビエフェア参加店を確保
＜参加店:50店(㉑実績:41店)＞
- ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客 ＜参加者数:3,200人(㉑実績:3,077人)＞
- ・「命の里」事業による農村再生活動や中丹ふるさと再生推進事業等の取り組みを通じ、集落リーダーの育成や集落の維持、再生・自立、発展に向けた支援 ＜支援集落数:81集落(㉑実績:80集落)＞
- ・都市住民との交流につながる農家民宿の開設を推進
＜府の支援による農家民宿の開設数(累計):33軒(新規6軒)(㉑実績:累計27軒、新規5軒)＞

【京都丹波「食と森の交流の都」構想】

- 森の京都博(国定公園指定、全国育樹祭等)を契機として、京都市内から1時間以内で本格的な農業農村体験が出来る強みを活かし、「一般社団法人 京都丹波・食と森の交流協議会」を中心に、小中学生の教育体験旅行など着地型・体験型旅行の受入体制整備・拡大を図り、森の京都振興会社(仮称)DMOによる観光地域づくりにつなげます。
- ・教育体験旅行の受入 ＜60団体 3,000人[うち農家宿泊 3市町村700人] (㉑実績:47団体 2,501人[うち農家宿泊 3市町村556人])＞
- ・H29から新たに受入が始まる修学旅行への対応など、受入体制の強化
 - ・宿泊を受け入れられる農家の拡大 ＜累計170戸(㉑実績:143戸)＞
 - ・(一社)食森協議会と連携した学校や旅行代理店等への誘致活動の展開 ＜20件(㉒新規)＞
- ・インバウンドの教育体験旅行拡大に向けた「森の京都インバウンド教育体験旅行受入マニュアル」の策定
- ・農業農村体験をセットにした着地型宿泊プランを提供する公的宿泊施設や温泉旅館、農家民宿等の施設数 ＜新規3施設(㉒新規)＞
- ・アグリスポーツの開催 ＜3回(㉑実績 5回)＞
- ・内水面漁業の役割など理解を深め、水辺や川魚など森と水の恵みに親しむ機会の提供
 - ・内水面漁協と連携した釣り教室等の開催 ＜2回(㉑実績:1回)＞
- ・農林漁家民宿の開業支援 ＜5軒(累計:23軒)(㉑実績:6軒(累計18軒))＞

運営目標

達成手段
(数値目標)

【新京都伝統工芸ビレッジ構想】【再掲】

○新光悦村に整備した移動式の職人工房を活用し、若手職人の販売や交流機会をつくるなどの支援を行うとともに、工芸関係者の新光悦村への誘致を進めます。

＜森の京都博in新光悦村等の来場者数:1,000人(㉔新規)＞

＜新規企業立地(新光悦村):2件＞

【北山文化環境ゾーン構想】

○新資料館や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を外に発信します。

・植物園入園者数 <90万人(㉔実績:88.3万人)＞

・陶板名画の庭入園者数 <7万人(㉔実績:6.2万人)＞

【京都クロスメディアパーク構想】

○太秦エリアを中心とした京都クロスメディアパークの整備推進のため、「京都クロスメディアパーク推進会議(仮称)」を創設し、映像を核とした産業の育成と府内への波及・展開を図ります。

・国内外との連携強化による映画・映像産業振興の拡充

＜企業とクリエイター等のマッチングサイトの構築・運営 マッチング数:5件(㉔新規)＞

＜コンテンツ関連企業・事業への支援数:100件(㉔実績168件)＞

＜若手クリエイター育成者数:85人(㉔実績81人)＞

【知恵産業首都構想】

○「京都産業育成コンソーシアム」のもと、「京都知恵産業支援共同事業」を府市協働で進めるとともに、「知恵の経営」等の事業のワンストップ化を進め、「知恵産業のまち・京都」を構築します。

＜知恵の経営認証企業:30件(㉔実績30件)＞

【京都乙訓ダイナミックシティーズ構想】

○かぐや姫観光

・DMO設立を目指し、「かぐや姫」をキーワードにマーケティング調査等を行い、かぐや姫観光を企画・推進

・乙訓土産プロジェクトを立ち上げ、観光消費額のアップ

・竹の径、たけのこ料理、ロケ地、文化・歴史資産、工場見学など多彩なバスの運行により、観光入込客数のアップ

＜10回(㉔新規)＞

・首都圏等でのプロモーション

・淀川三川合流地域の拠点施設のオープンを見据え、関係機関と連携した情報発信、賑わいづくり

・京都市西部、南丹地域や鉄道事業者等との連携による「京都・西の観光」を活用した広域ツアーの実施

＜3回(㉔実績:3回)＞

運営目標

- 乙訓にぎわい発信事業の実施
 - ・「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展を開催
 - ・乙訓商工・観光協議会のポータルサイト運営を支援
 - ・乙訓管内イベントへの府北中南部物産販売誘致(ガラシャ祭等) <5回(㉑実績:5回)>
 - ・市町や団体による竹に親しむ各種イベント支援 <3回(㉑実績:3回)>
 - ・大学生・留学生とのコラボで、SNSでの発信等により乙訓観光プロモーションを推進
- 乙訓「若竹」産業創造プロジェクトの推進
 - ・竹製のお守り・ストラップの製作。社寺での販売を支援
 - ・天王山を桜の名勝地として復活させるための「天王山復活プロジェクト」の推進(㉒新規)
 - ・竹資源・竹チップ等活用研究<4事例(㉑実績:4事例)>
- 「乙訓農商工連携推進協議会」等で多様な地産地消対策の推進
 - ・第二外環高架下で府内各地の特産物を販売する「ふるさと軽トラ市」等開催<2回(㉑実績:2回)>
 - ・生産者主体による「おとくに軽トラ朝市」の開催 <1回(㉑実績:1回)>
 - ・飲食店等と農家のマッチング<3例(㉑実績:3例)>
 - ・直売所における朝市等のパンフレット配布等による広報
- 地元野菜等を活用した観光土産品、特産品の製品化・販路開拓
 - ・乙訓特産花菜を使ったうどん等のイベントでの販売の実施

【宇治茶の郷づくり構想】

- 平成29年度「お茶の京都」ターゲットイヤーに向け、メインイベント開催に向けた準備や世界文化遺産登録に向けた取組を進めるとともに、富裕層にアピールする宇治茶ブランド力の強化を図ります。
 - ・茶業研究所が宇治茶に係る重要研究テーマを新たに策定 <3テーマ(㉒新規)>
 - ・伝統の手揉みから最先端の茶製造技術が修得できる新製茶棟を整備
 - ・プレミアム宇治茶認証制度の創設やお茶の味表現チャートの試作検証
<認証試行品(㉒新規)10個> <お茶の味表現チャートの試作検証 20個(㉒新規)>
 - ・「お茶の京都博」開催に向けたイベント等の実施
<イベント企画団体数:6団体(㉒新規)> <来場者数:5万人(㉒新規)>
 - ・宇治茶の世界遺産登録を実現に向けた取組の推進
<イコモスへのアピール:調査論文の提出>
<提案書のバージョンアップ(㉒新規)>
<重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の国選定に向けた基準づくりの開始:2町村(㉑実績:2町村)>
<シンポジウム、文化講座等の開催:5回(㉑実績:5回)>

運営目標

【京都イノベーションベルト構想】

○オープンイノベーションの取組強化により新産業創出を強力に推進し、「京都イノベーションベルト」を活性化します。

- ・産学・産産連携等による共同研究開発プロジェクトを更にKICKに集積させます。

＜平成28年度末の集積プロジェクト数：累計30件(㉗実績13件)＞

- ・国の研究機関や世界的な企業が参画する大型プロジェクトのKICKへの誘致を実現します。＜誘致件数：3件(㉘新規)＞
- ・KICKへの入居を目指す中小企業・大学等の研究開発グループの新たな組成及び研究テーマの高度化を支援します。

＜支援件数：10件(㉗実績11件)＞

- ・KICK内外の中小企業・大学等研究機関等とのオープンイノベーションを推進するため、KICK発研究成果の発信や研究交流を進めるためのセミナーや交流会等を開催します。＜セミナー等参加者数：300人(㉘新規)＞

・「スマートシティ産業の森」をはじめとする5つの企業の森を創生する「企業の森推進事業」により、新たな産業文化を創生する企業グループを形成します。＜企業グループ数：120グループ(㉘新規)＞

【学術研究・未来の都構想】【環境・アグリバイオパーク構想】

○関西文化学術研究都市の新たなステージにおいて、スマートシティ・イノベーションシティの構築を進めます。

○KICKを中心に最先端の研究交流を推進し、成果の実用化に取り組みます。

- ・ RDMM支援センターやリサーチコンプレックス事業を核としたイノベーション創出の推進
- ・ 企業展示等内容の充実を図った京都スマートシティエキスポ2016を開催
- ・ 外国人研究者数の増 ＜235人(㉗実績222人)＞
- ・ 国内外の自治体や企業等の参画による「スマートシティ・グローバルネットワーク」によるワーキンググループの組成 ＜5件(㉘新規)＞

- ・ 入居を目指す中小企業・大学等の研究開発グループを組成するなど、研究テーマの高度化を支援

＜支援件数：10件(㉗実績：11件)＞

- ・ 産学・産産連携等による共同研究開発プロジェクトのKICKへの更なる集積

＜平成28年度末の集積プロジェクト数：累計30件(㉗実績13件)＞

○研究機関・企業の立地を促進し、分譲可能用地の完売を目指すとともに、さらなる立地環境の整備を進めます。

- ・ 分譲面積 ＜10ヘクタール(㉗実績 22ヘクタール)＞
- ・ 南田辺西地区の早期開発に向けて、民間活力を活用した開発計画等を策定するとともに、開発事業者を決定

○国際会議等コンベンションが多く開催される都市を目指して誘致活動を本格化します。

- ・ APECTEL54(平成28年秋開催)の成功に向けた地元一体の開催支援
- ・ けいはんなコンベンション誘致推進協議会の活動を本格化 ＜3件(28年度誘致獲得件数)(㉘新規)＞

○ICTを活用したスマートな公共交通システムの導入を目指して取組を進めます。

企業集積の拡大に対応した公共交通の充実

- ・ 連節バスの平成29年度実走に向けた道路等の基盤整備
- ・ スマートライティングやスマートバスストップなどICTを活用したシステムの29年度導入に向けた準備
- ・ 実証運行中である学研都市直通バスの継続運行